

「こどものおまつり・あそび場づくり」実践報告 とことこサマーフェスティバル・大学祭あそびば・こどもかぜのこまつり

遠藤 知里・馬飼野陽美・木下 藍・森 広樹

1. 「こどものおまつり・あそび場づくり」について

「こどものおまつり・あそび場づくり」とは、保育内容研究Ⅴ（表現A）（1年生）、乳児保育演習（2年生）、レクリエーション援助法（2年生）、子どものフィールドワーク（1年生）、レクリエーション論（2年生）、子どもの文化と生活（2年生）の受講者を対象として、2022年度に実施した「授業での学びを活かす学生主体の授業外活動」の総称である。企画当初は「こどものおまつり」と呼んでいたが、活動を振り返ったとき、活動全体をよりよく表す呼称として「あそび場づくり」が浮かびあがってきたため「こどものおまつり・あそび場づくり」とした。

2. 取り組みの特徴

2.1. やりたい人がやる・ご縁がつながる・その場をうまくわかちあう

授業外活動なので、基本的に「やりたい人が参加する」スタイルになっている。学生もそうであり、教員もそうである。また、「おまつり」につながる言葉で「縁日」という言葉があるが、「こどものおまつり・あそび場づくり」の日時設定（前年度の12月頃に日時と場所だけは決まっている）が「縁日」的な構造を作っている。詳述すると、この企画が「まつりであること」と、「日時と場所だけ明確に決まっている」ということが案外重要である。この極めてシンプルな約束事は、できることのリミテーションを明示し、想像力をふくらませイメージを創る土台となる。やってみたいという志のある学生同士の関係性をつなぎ、そのご縁が次の機会につながる動機を支えていく…という大変な難しい構造を、見えない部分で下支えしている。さまざまな意味で、「こどものおまつり・あそび場づくり」は「縁日」である。

また、授業とは異なり、それぞれの企画趣旨を「楽しそうだと感じた」人たちが、「時と場を同じくする」だけという「ゆるやかなご縁」で、初めて出会う学生同士の関係性が形成されるという特徴があり、そのゆるやかさが「その場をうまくわかちあう」を可能にしている。ほとんど知らない間柄のグループ同士、あるいは個人同士が、「相互に楽しくやるためにはどうしたら良いか」というささやかな葛藤体験を、なんだか楽しい祭りの雰囲気の中で、半強制的に、かつマイルドに越えていくことができる。

2.2. 幼児教育支援センターに応援してもらおう

2021年度～2022年度にかけて、「幼児教育支援センターが応援する事業」という名称で、学生の主体的な活動を支援する活動が展開されている。具体的には、学生の保育研究活動やボランティア活動に対して主に物的支援をするものであり、「応援★文房具（必要な文房具を貸してもらえる）」、「応援★ワークショップ（研究会や勉強会で使用する消耗品を現物支給する）」、「応援★手弁当（昼食が出ないボランティア活動に参加する場合に弁当代を補助する）」、「応援★消耗品（学生が企画するボランティア活動に必要な消耗品を現物支給する）」の4区分がある。「こどものおまつり・あそび場づくり」は、「応援★文房具」および「応援★消耗品」の区分で、幼児教育支援センターに応援していただいております、大

変助けられている。

3. 今年度の活動

3.1. とことこサマーフェスティバル（2022年7月20日 16:00～17:45）

【目的】

- ・コロナ禍で「おまつり」を体験していない子どもたちが、学生が計画したあそびコーナーに参加することで「おまつり」の雰囲気を味わう。

【日時】

- ・2022年7月20日（水）16:00～17:45（準備15:00～、片付17:45～18:15、終了18:15）

【場所】

- ・常葉大学草薙キャンパス 芝生広場周辺、子育て支援室周辺

【企画の概要】

- ・保育の授業の学びを活かして、おまつりの屋台として、学生があそびコーナーを出店する。
- ・保育学部今村ゼミの学生も参加する（はだしであそぶコーナー）。
- ・参加者は近隣に住む幼児とその保護者（徒歩で来場できる人）を対象とする。
- ・城東子育て支援センター、西奈児童館、草薙児童館等にチラシを持参し、宣伝する。
- ・「おみせ」は、「リングあめ（新聞と色セロハンで工作）」、「さかなつり（プールに魚を浮かべて釣る）」、「射的（割り箸鉄砲、水鉄砲で射る）」、「おぼけたたき」、「ヨーヨー」、「わなげ」、「切り紙のらくがきせんべい」、「手作り太鼓で踊る」など。



写真1 とことこサマーフェスティバル 当日の様子

3.2. こどもかぜのこまつり

【目的】

- ・コロナ禍で「おまつり」を体験していない子どもたちが、学生が計画したあそびコーナーに参加することで「おまつり」の雰囲気を味わう。

【日時】

- ・2023年1月16日（月）10：00～11：45（準備9:00～、片付11:45～12:15、終了12:15）

【場所】

- ・常葉大学草薙キャンパス 芝生広場周辺、子育て支援室周辺

【企画の概要】

- ・保育の授業の学びを活かして、学生があそびコーナーを出店する。
- ・参加者は近隣に住む幼児とその保護者（徒歩で来場できる人）を対象とする。
- ・城東子育て支援センター、西奈児童館、草薙児童館等にチラシを持参し、宣伝する。
- ・「おみせ」は、「たこあげ」、「ふくわらい」、「おみくじ」、「おめんづくり」等



写真2 こどもかぜのこまつり 当日の様子

4. 成果と今後に向けて

4.1. 大学祭「子どものあそび場」への展開

このような「こどものおまつり・あそび場づくり」の活動は、学内の、主に屋外（芝生広場等）で行われた。そのため、保育科生の活動が、他の学部の学生の目に触れる機会ともなった。

とことこサマーフェスティバルの際に、大学祭実行委員会の学生（学部生）が、短大保育科生に声を掛けたことがきっかけとなり、11月の大学祭（心薙祭）では、大学祭実行委員会企画に短大保育科生が関わることになった。ゆるやかな「おまつり」での出会いが、他学部の学生と共同で企画する社会貢献的な場へと発展する過程の中で、さまざまな困難を乗り越えて短大保育科2年生がリーダーシップを発揮し、子どものための場が創り上げられた。



写真3 大学祭「子どものあそび場」当日の様子

4.2. 今後にむけて

「こどものおまつり・あそび場づくり」を実践していく中で、印象に残った学生の言葉がある。「おまつりは、みんながだんだんと、自由に集まってくる感じが楽しい。」その通りだと思う。

数年来続くコロナ感染拡大の状況の中、さまざまなことが制限されてきたが、特に「自由に人と人が集まり、人間の温度が感じられる場」に身を置く機会が著しく減ったように感じている。

そのような中でも、試みが発展していく様子が感じられた。学生のかかわりを喜んでくださる地域の方々の気持ちにも支えられ、新たな「ご縁」がつながっていくようにも感じる。

2023年度も「とことこサマーフェスティバル」、「こどもかぜのこまつり」は同様に継続し、大学祭のあそび場づくりも保育科の企画として発展継続できるようにしていきたい。

また、本学には学生の自主活動を支援するプログラムとして「とこは未来塾－TU Can Project」がある。短期大学部学生も参画できるもので、特にライトプランと呼ばれる区分は短大保育科生のやりたいことにフィットしている。そちらへの発展も期待したい。